

議 事 録

会議名		釧路市障がい者自立支援協議会 第1回 生活支援部会	
事務局		釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時		令和4年6月22日(水)	
開催場所		Zoom ミーティングを用いたオンライン開催	
出席者	部会員	高橋部会長（鶴が丘学園） 島貫（アルケー） 伊東（いまい） 菅原（釧路市音別町行政センター） 今野（ぷろぐれ） 福井（さわらび学園） 西（大きな木） 松田（SAKURA） 今野（そんぐ） 佐藤（花笑み） 高橋（サハスネット） 大刀根・齋藤（釧路養護学校） 堀・青山・小形（鶴野支援学校） 議事録：井上副部会長（あゆみ）	佐藤副部会長（ニチイケアセンター北都） 赤田（NPO 法人ふわり） 宮田（カブシーヌ鳥取北） 平間（釧路市社会福祉協議会） 藤山・小林（くしろ地域生活支援センター） 北川（丹頂の園） 町田（CALUMA） 種村（すてっぷ） 水島（多機能型事業所はばたき） 竹川（プルミエ） 塙（ほーむはなはなとっとり） 三輪（中標津支援学校） 敬称略 出席者 30 名
	その他	なし	
	傍聴者	なし	
	事務局	障がい福祉課：鈴木主査 高杉主事 釧路市障がい者基幹相談支援センター：金子 細野	
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋 修 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和3年度の活動報告および令和4年度の活動計画について 2) 令和4年度体制と専門部会の在り方について 3) 障がい者地域生活支援拠点等事業について 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度生活支援部会の活動内容について グループワーク：アンケート結果に基づき困り感の共有 5. 閉会 	

議 事 内 容

1. 開会

2. 部会長挨拶

釧路市障がい者自立支援協議会 生活支援部会長 高橋 修

3. 報告事項

○部会長より

1) 令和3年度の活動報告および令和4年度の活動計画について

- ・令和3年度の活動について、3回部会を開催。新型コロナウイルス感染対策等により全回書面開催。11月にYoutube 配信での研修会を実施し、視聴回数168回と好評。
- ・令和4年度の活動について、年4回の部会開催で、12月には研修会を予定。部会開催の方法については基本参集を考えているが、感染状況によってオンライン開催に切り替えて対応。

○事務局より

2) 令和4年度体制と専門部会の在り方について

- ・自立支援協議会専門部会における部会長及び副部会長の役割について、以下2点を説明。
 - ①各部会の部会長及び副部会長、部会員、事務局の役割を統一
 - ②部会長及び副部会長が中心となって運営し、地域の課題を協議する。
- ・今迄は部会ごとにそれぞれの役割が異なっていた為、役割を明確化し、どの部会であっても同じように運営していくことを目的としている。また、議題の立案や議事の進行に関して部会長、副部会長が中心となり携わること、部会員にも会場の準備や記録の作成等を依頼することを説明。

○事務局より

3) 障がい者地域生活支援拠点等事業について

- ・障がい者地域生活支援拠点等事業のリーフレットを基に説明。
- ・登録者1名、登録に向けて対応している方が4名。将来、親亡き後等も含め、どのように生活していくのか見据えていく事が重要。部会員の事業所等に該当される方がいたら、この事業の紹介や活用など対応して頂きたい。

4. 協議事項

1) 令和4年度生活支援部会の活動内容について

グループワーク(アンケート結果に基づき困り感の共有)

- ・訪問系、居住系、日中活動系に分かれ、令和4年度生活支援部会の活動についてのアンケートの中の11項目の中から共通の課題を絞り、12月の研修会に向けてグループワークを実施。

課題：事業所間での情報共有、高齢障害者、困難事例、障害特性

議 事 内 容

【グループワークの結果】

①訪問系

- ・中々相談員と連絡が取れず、情報共有が出来ない。
- ・80歳後半の独居の方が入所できる施設が無い。
- ・65歳で障害福祉サービスから介護保険に切り変わる事により、サービス回数が減ってしまうケースに対しニーズに合わせたサービスが提供できない。
- ・困難事例に関して、週1回ヘルパーとミーティングを行って情報共有している。
- ・障害種類毎に即した対応が求められ、サービス低下や利用者不満に繋がらないよう配慮が必要。
- ・他訪問事業所とのミーティングの数を増やして情報共有していきたい。

②居住系

- ・高齢障がい者への接し方について、既存の障がいから派生しているものなのか、認知機能の低下によるものなのか区別がつかず対応に悩む。
- ・高齢者の介護技術の研修を月に数回程度行っている。
- ・外部研修を検討しているが、コロナ禍で行えていない。
- ・障害特性の理解について新任職員対象に特性等の内部研修を月1回程度実施している。
- ・月1～2回程度対象の入居者の障害特性などを話し合っているが、職員間での情報のすり合わせが難しいと感じる現状がある。
- ・GHでは利用者の高齢化が進む中、医療行為等も増えてきており職員の介護等のスキルが課題。
- ・養護学校では発達障がいの方が増えてきている中、気持ちのコントロールの仕方等も含め、進路先との連携も課題となってくる。
- ・全体的に重度化、高齢化という事に対し課題が挙げられている。

③日中活動系

- ・学校関係より、現在措置で入所されている方(衝動性等の特性が見られる)が18歳以降、社会生活を見据えた際、社会資源の少なさからサポート体制に不安がある。
- ・高次脳機能障害の方に対し社会復帰を考えた時、出来ていた事が出来ない等のご本人の気持ち等を考えた時、障がい受容も含めサポートの仕方に苦慮している。
- ・主に知的に重度の方に関して、対人関係や、特性を踏まえた環境調整などの難しさから他害に繋がるケースが多く、対応方法などを学びたい。

※これらを第2回生活支援部会にて再度協議し12月の研修の開催にあたる。

5. 閉会

以上